

プロジェクト課題活動実績

課題名：南萩地域の水田作および園芸産地の体質強化

萩農林水産事務所農業部 チーム員：○高橋美智子、畑中猛、白石勝己、柴崎良直
＜活動事例の要旨＞

中山間地域における法人を主体とした水田作の振興を進めるため、既存の集落営農法人の水稲・麦・大豆の単収向上と各法人の経営改善に向けた取組を支援した。

集落営農法人の水稲については、トビイロウンカの注意報・警報が発令され、各種の防除指導を図ったものの、坪枯れ等の被害が多かったことから、法人へ栽培管理や被害状況等の聞き取り調査を行った。各法人、各品種で被害が発生しており、収量が減少した。法人に対して防除指導を行い、防除も実施されたが明らかな効果は認められなかった。一部ほ場で使用されたトビイロウンカに卓効のある成分を含む箱施用剤の効果は高かった。

ムギ（裸麦）については、播種時期の適正化と成熟期は水分量確認による適期収穫について指導した。適期播種できた法人では収量が向上した。また、適期収穫については実施できた。

大豆は、初期生育確保と排水対策による単収向上を図るため、モデル法人を選定し重点指導した。また、大豆を生産する集落営農法人(5法人)、J A、農業部で合同現地巡回を3回実施し、直接指導を行うことで低収要因の改善と改善策の徹底を図った。

島嶼部においては、園芸産地の振興を進めるため、ブロッコリー生産の盛んな大島で昨年度問題となったハウ素欠乏症対策の実態調査とその対策に向けて支援した。その結果、今年度産ブロッコリーでのハウ素欠乏症の発生は減少した。

また、西瓜の生産の盛んな相島では西瓜の荷運びが重労働なことから生産者の要望を受けアシストスーツ実演会を開催する等、産地の課題解決のための取組み支援を行った。

1 普及活動の課題・目標

南萩地域は、島嶼部、平野部、中山間部と多岐にわたる立地条件を生かし、島嶼部ではきゅうり(見島)、すいか(相島)、ブロッコリー(大島・相島)などの産地が形成され、中山間部では、集落営農法人を中心に水稲を主体とした営農が展開されている。

しかしながら、生産条件は厳しく、島嶼部では交通の不便さ等により生産者数は漸減しており、また、中山間部では零細なほ場条件等により、水稲の単収も管内平均より低い状況にある。

こうした中、中山間部における法人を主体とした水田作の生産安定と島嶼部における園芸産地の課題解決による活性化を進め、水田作、園芸産地の体質強化を図る。

2 普及活動の内容

(1) 水田作の体質強化

ア 集落営農法人推進地区の掘り起こし

南萩幹事会で、集落リーダーや地域の状況について情報共有を図り、候補地掘り起こしについて検討したが、新たな候補地を見出すことはできなかった。

このため、今年度から営農活動を開始し、認定農業者となった広域受託法人((有)グリーンファーム旭)と関係機関による情報交換の場を設けると共に、佐々並地区の課題と今後のグリーンファーム旭の農業経営改善計画に基づく事業展開について意見交換を行った。

イ 営業利益向上(水稲・麦・大豆の単収向上)

集落営農法人の栽培する水稻については、定点調査ほの設置やほ場巡回等を活用し、生育の状況把握と管理技術の指導に努めた。

今年度は、特にトビイロウンカの注意報（7月16日）、警報（8月3日）が発令されたことから、地域のほ場調査の結果と併せて関係機関と検討し、チラシを作成してJAを通じて配布する等注意喚起した。しかしながら、コシヒカリから飼料用米まで坪枯れ等の被害が多く見られ、収穫量も減少した。そこで、各法人の被害や防除対策等について聞き取り調査を行った。

ムギ（裸麦）を栽培する2法人について、播種時期の適正化と成熟期の水分確認による適期収穫の指導を行った。

大豆については初期生育の確保と排水対策による単収向上を図るモデル法人として（農）長小野を選定・実証ほを設置し重点指導を行った。また、大豆を生産する近隣5つの集落営農法人を参集し、大豆合同巡回を3回開催し、適期作業の指導を行った。また、法人栽培担当者からの聞き取りや収量調査を行った。



【大豆実証ほ】



【大豆合同巡回による適期指導】

(2) 園芸産地体質強化

ア 産地の技術的な課題解決

ブロッコリー(大島・相島)で昨年度ホウ素欠乏症が問題となったことから、土壌診断とアンケート調査を行った。特に大島で被害が大きく低pHの圃場が多くみられたことから、栽培講習会でホウ素欠乏症対策の徹底を指導した。

ほ場までの作業道が狭く、高齢化で西瓜や肥料等の運搬が重労働だと産地の課題となっている相島すいかでは、作業軽減化についての情報収集を行い、アシストスーツの実演会を相島で開催した。



【ブロッコリー栽培講習会(大島)】



【ブロッコリー生育状況確認(大島)】

3 普及活動の成果

(1) 水田作の体質強化

広域受託組織((有)グリーンファーム旭)については、今年度認定農業者に認定された。

水稻は前年度より低収（5～6俵/10a）となった法人が多く、トビイロウンカの被害に加え早期落水、早刈りが収量低下の大きな要因であることが判明した。トビイロウンカに対する防除の重要性が再確認されたことから、次年度対策としては、トビイロウンカに卓効のある成分を含む箱施用剤等への切り替えと適期防除の徹底を実施することとなった。

大豆の南菰地域の平均単収は90kg/10a（R2年産）となり、61kg/10a（R元年産）と比較すると単収向上したものの、天候不順による生育不良と雑草の多発から目標の単収（150kg/10a）には届かなかった。

南菰地域の大豆の低単収の要因は雑草害で、播種時の機械設定の見直しによる苗立ち数の確保と溝堀機等による排水対策、除草剤の選定が必要と考えられた。また、3回の大豆合同巡回を通して低収要因を改善するためのポイントを確認でき、作業受委託関係にある佐々並地区の集落営農法人と広域受託組織との積極的な意見交換の場づくりができた。

ムギ（裸麦）は、適期播種できた1法人では昨年に比べ収量が増加し、播種が遅れた1法人では昨年に比べ収量が減少した。

今年度の結果については、法人訪問により対策を協議し、水稻は施肥・水管理、大豆は排水対策、除草対策の徹底を中心に法人毎に次年度対策を確認した。

作業遅れの影響が大きく営農上の課題が大きい法人については、昨年度に比べると麦、大豆について適期作業を行うことができた。また、経営改善すべき内容について理事と共通認識をとることができた。

(2) 園芸産地体質強化

大島ブロッコリー部会に栽培熱心な若手があり、栽培講習会ではブロッコリーのホウ素欠乏症対策が周知できたことからホウ素入り肥料へ変更した農家が多く、生育中のほ場巡回や生産者への聞き取りでも昨年度に比べると発生を減らすことができた。ただし、酸度矯正が不十分なほ場や土壌中ホウ素濃度が少ないほ場もあり、継続的な取り組みが必要である。

相島スイカ部会でのアシストスーツ実演会は生産者の関心が高く、産地の課題解決に向けた支援を行うことができた。



【アシストスーツ実演会(相島)】



【アシストスーツ体験(相島)】

4 今後の普及活動に向けて

(1) 水田作の体質強化

ア 既存法人の経営安定

既存法人に関する情報の整理と課題の明確化を行い、改善策を提案する。
広域受託組織(有)グリーンファーム旭の営農活動支援と法人間連携の促進を図る。

イ 営業利益向上(水稲・麦・大豆単収向上)

重点指導法人を選定し、経営の主品目となる水稲、麦、大豆の単収向上を図る。
課題の大きい法人については運営体制の見直しと改善事項の実行を支援する。

(2) 園芸産地体質強化

島嶼部における産地の技術的な課題解決を行う。(ブロッコリーハウ素欠乏症対策)
若手生産者のための栽培マニュアルの策定(ブロッコリー)することにより、若手生産者の安定生産と新規栽培者獲得に活用する。